

IDE Updates

研究所の取り組みをご紹介します



UIBE での MoU 締結式典

ラオスの産業立地に関する政策提言レポートについてメディアとの勉強会を実施しました。

アジア経済研究所は今年度、「ラオス経済産業貿易開発ビジョン」政策提言研究会を実施しています。

同研究会の成果は、七月四日（土）に日本・メコン地域諸国首脳会議にあわせて来日されたラオスのトンシン首相へ、ジェトロ・海外調査部とアジア経済研究所共同の政策提言書として石毛理事長から手交されました。

それに先駆け、七月二日（木）にはメディアを集めた勉強会が実施され、今回の研究成果について説明を行いました。政策提言のポイントである(1)サービス自由化の推進、(2)直接投資における投資手続きの改善、(3)カイゼン・5Sの推進と技術者の国際移動円滑化、(4)集積効果を

生かした産業立地政策について、主査の石田正美開発研究センター長等が説明を行い、それに対し意見交換が行われました。

本研究会の成果をもとに、ラオスでもセミナーを開催し、政策提言につながるようさらなる普及を図ります。（本研究会の成果はアジア経済研究所のHPでご確認いただけます。）

中国・対外経済貿易大学（UIBE）と研究交流協定（MOU）を締結しました。

アジア経済研究所は七月一三日（月）に、北京にてUIBEと研究交流協定を締結しました。これまで研究所とUIBEは、グローバルサプライチェーンにおける中国の二酸化炭素排出に関する研究や、グローバルバリューチェーン（GVC）に関するワークショップを共催してきました。

協定は、(1)共同研究の実施、(2)レクチャー、セミナーおよびワークショップの共催、(3)学術情報及び出版物の交換、(4)研究組織の設立支援（特にGVC研究分野関連）について包括的な締結を行っており、今後のさらなる研究協力が期待されます。

兵庫県立兵庫高校がアジア経済研究所を訪問しました。

兵庫県立兵庫高校の一年生一名（教諭一名）が八月五日（水）、夏休みを利用してアジア経済研究所を訪問しました。

二〇一五年度より文科省スーパーグローバルハイスクール（SGH）に選定された兵庫高校では、グローバルリーダー育成に向けた事業の一環として「日本企業のグローバル化」をテ

マに課題研究を実施しているそうです。

当日は、藤田麻衣研究員（地域研究センター東南アジアⅡ研究グループ長代理）が講師となり、日本企業の海外進出について、ベトナムの事例をもとに講義を行いました。なぜ企業は海外進出するのか、という問いに始まり、ベトナムにおいて外国企業の進出が拡大し、経済に占める外国投資の役割も高まってきた経緯と背景について、実際の企業事例を取り上げつつ写真やスライドを用いて解説しました。

発表後、参加した高校生からはベトナムは社会主義国家なのに、どうして資本主義のような経済体制なのかなど質問もあり、興味深く聴講していました。その後、図書館見学を行いました。来年は、こうした課題研究をもとに、実際にベトナム訪問も予定されているそうです。

（文責：研究マネジメント職 佐々木晶子）



兵庫高校への講義の様子